

認知症グループホームにおける入居者本人の看取りの意思決定支援モデルの開発
～認知症支援者へのインタビュー調査から～

社会福祉学専攻 橋本 美香

要 旨

【目的】

本研究の目的は、認知症支援者へのインタビュー調査を実施し、認知症グループホームにおける入居者本人の看取りの意思決定支援モデルを開発することである。

【方法】

本研究の事前調査として、全国の認知症グループホームを対象とした看取りの実態調査、次に、認知症グループホームの職員を対象とした看取りの意思決定支援の体験と考えについてインタビュー調査を実施した。本研究は、地域の認知症支援者を対象として認知症グループホームにおける看取りの意思決定支援のあり方についてインタビュー調査を実施し、これに文献検討を加えて意思決定支援モデルを作成した。

【結果】

認知症グループホームにおける入居者本人の看取りの意思決定支援モデルとは、地域の社会資源との情報共有を行い、十分な教育を受けた認知症支援の専門職と認知症グループホームがつながりながら、入居前、入居時、入居中、退居を通して、日常の中で認知症の人の表情、行動、言葉を読み取って意向を汲み取り、かつ、入居者本人の意思を基軸としたキーパーソンの代理意思決定を導くことである。また、認知症の人の個別性に応じたケア実践という両面から支えることである。

【考察】

認知症グループホームにおける入居者本人の看取りの意思決定支援モデルでは、地域にある社会資源と認知症グループホーム入退居を通して連携し、入居者本人の意思の実現につなげることを提案した。また、本意思決定支援モデルは、認知症の人本人の意思を基軸としており、家族は意思決定支援者側にある観点について社会的合意を得ることが重要と考える。

今後は、認知症グループホームに介入し、作成した看取りの意思決定支援モデルの有効性について検証することとする。

キーワード：認知症 意思決定支援 看取り 認知症グループホーム